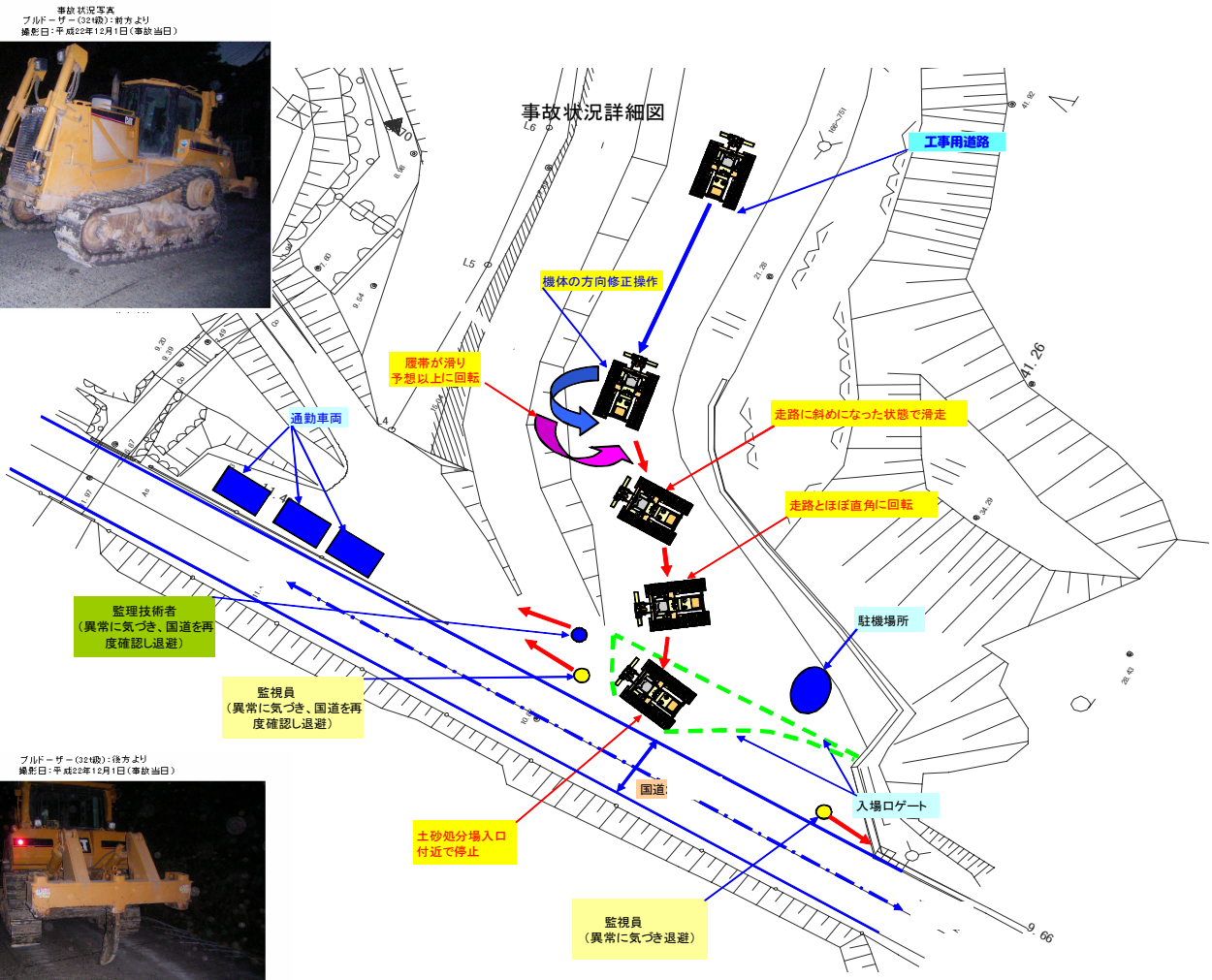
35	事故種類	一般事故	発生日時	平成22年12月1日　17時25分		事故当事者	元請
	事故区分	公衆災害	年齢性別	―	職種	―	
	被災程度（全治）	入場ロゲートの破損					
	事故概要	重機（32tブルドーザ）を場外に搬出するために、工事用道路（建設会社の私用道路を借用）を自走で下っていた際、方向切替のため一旦停止後に再始動したところ、機体が滑り出し、入場ロゲートに接触・破損し国道の手前で停止。被災者及び一般車両への影響はなかった。					
	事故原因等	・傾斜地でカーブ走行時に急速な方向転換により滑走したことから操作方法に誤りがあったと判断 （自走経験者からの聴取でも徐々に方向転換すれば安全に通行できるとのこと） ・土砂の搬出入作業後であり、通常の施工時間より遅くなったため気持ちの焦りがあった。					
	改善策等	①急斜面を自走で走行する場合、自走経路の下りの傾斜面の確認を事前に行う。 ②気の焦りはミスに繋がるので職長がKY活動で安全を再確認					
	類似工事（他工事）へ活用できる対策等	・重機を自走で走行する場合は、自走経路、能力等について事前確認の徹底。					

事故状況図

事故状況写真
ブルドーザー（32t級）：前方より
撮影日：平成22年12月1日（事故当日）

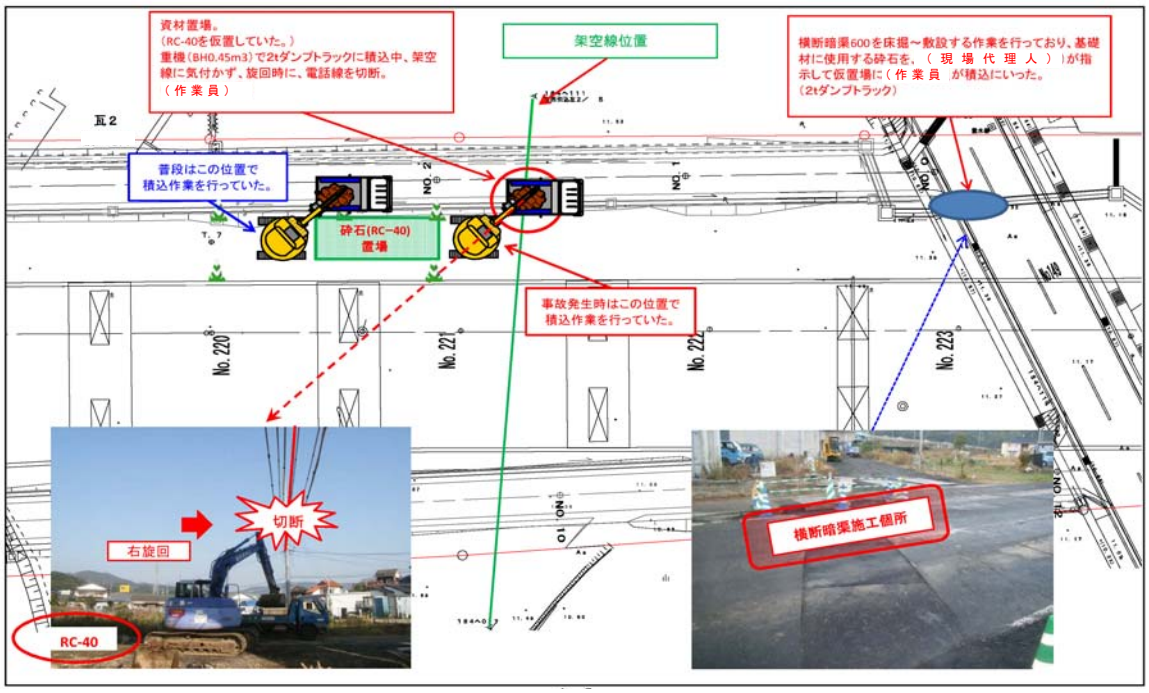


ブルドーザー（32t級）：後方より
撮影日：平成22年12月1日（事故当日）

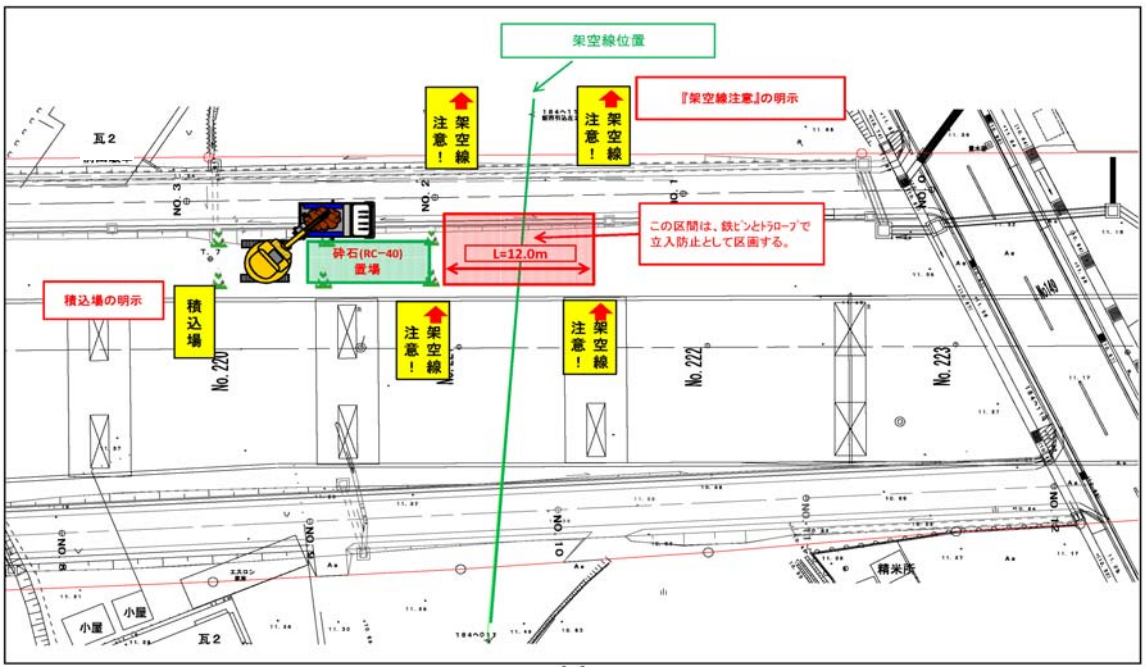
フェンス破損状況

36	事故種類	労働災害	発生日時	平成22年12月21日　13時30分		事故当事者	元請
	事故区分	公衆災害	年齢性別	―	職種	―	
	被災程度（全治）	NTT引込み線の切断（1戸：90分）					
	事故概要	資材をバックホウにてダンプトラックに積み込み中、NTT架空線（引き込み線）を切断。民家1軒が電話不通。					
	事故原因等	・資材積み込みヤードを指定していたにも拘わらず、架空線に近接した箇所でバックホウによる積み込み作業を行った。 ・架空線等上空施設への切断事故防止についての指導を下請けに行っていたにも拘わらず、遵守できなかった。 ・防護カバー等の対策がなかった。					
	改善策等	・物理的対策として架空線下に立ち入り防止柵を設置し、視覚的対策として架空線注意看板を設置する。 ・事故防止に対する意識向上を図るため、新規入場者テキストを用いた再教育を行うとともにKY活動についても再徹底をはかる。また作業員全員に再教育を行い、周知徹底を行う。 ・防護カバー等の取り付け。					
	類似工事（他工事）へ活用できる対策等	・防護カバー設置や高さ制限装置の設置等の「架空線等上空施設切断防止特記仕様書」に記載されている切断防止対策の徹底。					

事故状況図

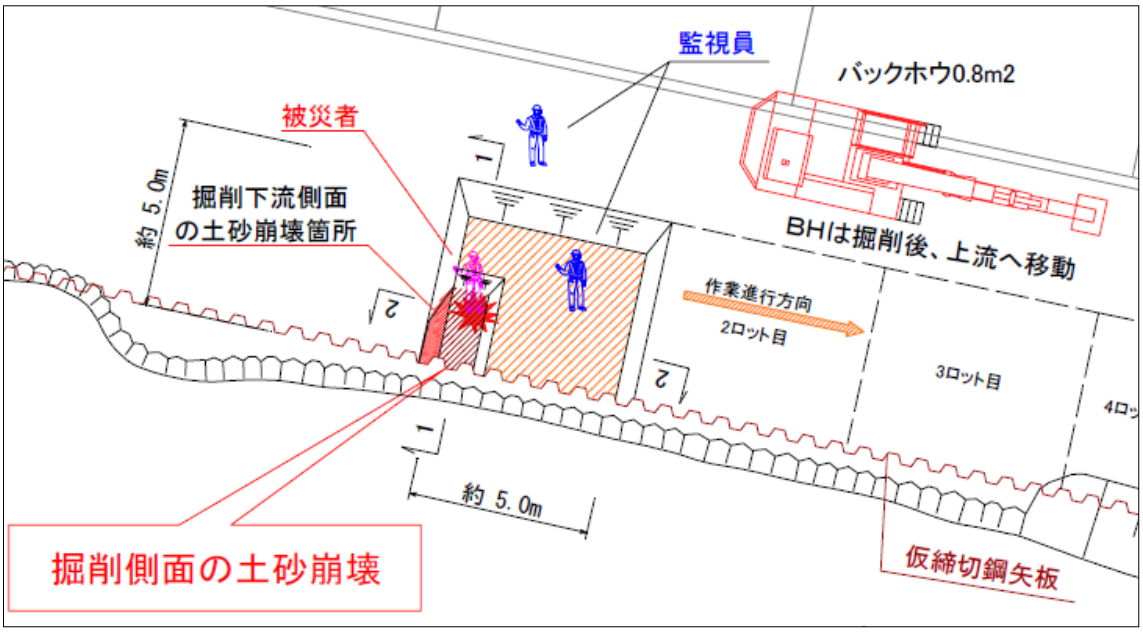


改善策



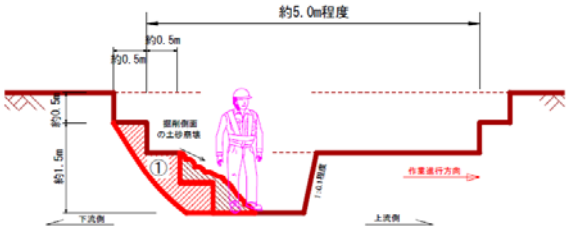
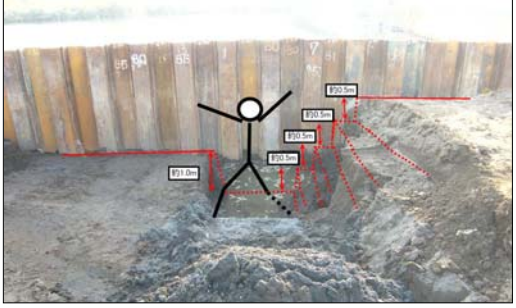
37	事故種類	労働災害	発生日時	平成22年12月23日　9時40分		事故当事者	元請
	事故区分	労働災害	年齢性別	40歳男性	職種	現場代理人	
	被災程度（全治）	左脛腓骨骨幹部（ﾋﾀﾞﾘｹｲﾋｺﾂｺｯｶﾝﾌﾞ）骨折　（全治6週間）					
	事故概要	・低水護岸の施工にあたり、約２ｍを掘り下げる作業を５ｍ四方のロット毎に実施していたところ、最初の掘削底面が見えた段階で矢板からの湧水の確認のため、現場代理人が掘削面に入った。 ・約１分程度の掘削面の確認を終えて掘削箇所から上がろうとしたところ、側面の土砂が崩壊し現場代理人の膝下が崩落土砂に埋まり、左足を骨折。 ・監視員が崩落の前兆に気づき声をかけたが間に合わなかった。 ・掘削の流動性の高い砂層が湧水で徐々に流出し上部が崩壊したものと推測。					
	事故原因等	１．作業手順書に定められた掘削作業の途中で、人の立ち入りを想定していない掘削面に人が入ってしまった。 ２．掘削作業中に直接作業の指揮を行うべき作業主任者が、当該行為を止める事が出来なかった。					
	改善策等	１．掘削途中での掘削面への人の立ち入りはしない事が原則であるが徹底を期するため「作業手順書」に以下を明記する。 ①掘削作業途中において、作業員は掘削箇所に入らない ②諸確認作業の掘削作業中にやむなく掘削面に入る場合は、掘削高さに関係なくすべての掘削面の安定勾配を確保する。 ２．本社が１回／月実施する安全パトロールのチェック項目に ①低深度の切土法面であっても土質に応じた安定勾配が確保されているか ②湧水による法尻崩壊を放置していないか ③一連の切土法面上で著しい土質の違いがあるか、またその際に安定勾配の妥当性のチェックがなされているか ④掘削地山に矢板打設によるゆるみはないか、ある場合は安定勾配の配慮がなされているか などの掘削面崩壊に対する安全対策の項目を追加し、地山崩壊に対する安全対策を徹底する。					
	類似工事（他工事）へ活用できる対策等	・掘削作業中の現場には、立ち入らないようにする。 ・掘削作業中にやむなく掘削面に入る場合は、掘削面の安定勾配を確保するなど、安全対策を行った後に入るようにする。					

事故状況図



確認を終了して掘削箇所から上がろうとしたところ、下流側側面①の土砂崩壊が発生し現場代理人の膝下まで土砂に埋まり、左足を骨折した。

2-2断面



事故発生箇所状況写真